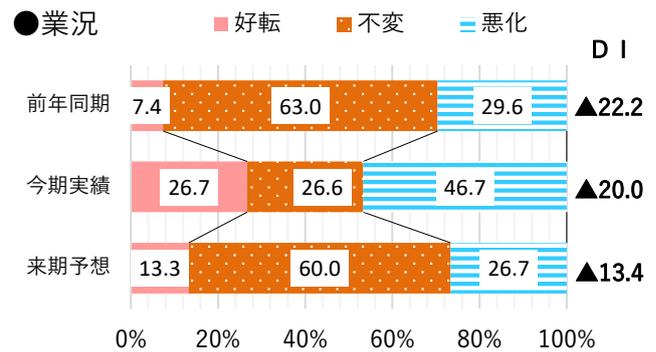


小 売 業

業況、売上、採算

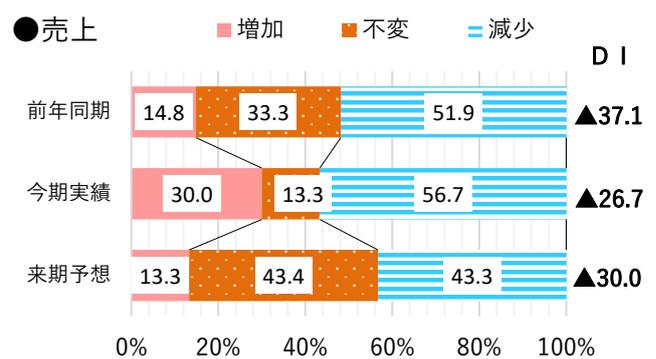
今期(2020.10~12)の業況判断DIは▲20.0で、前年同期(2019.10~12)と比べ2.2ポイント上昇しました。

来期(2021.1~3)は、業況の悪化傾向が続くと予想しています。



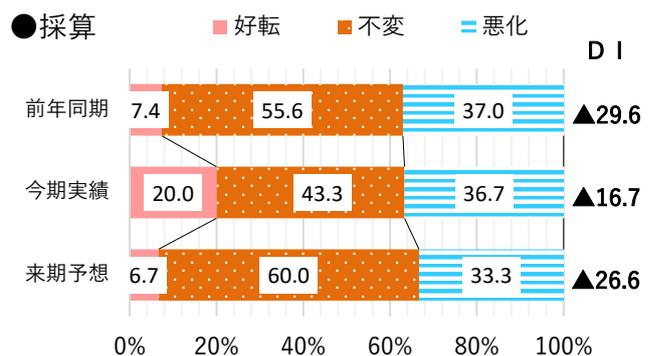
今期の売上高DIは▲26.7で、前年同期と比べ10.4ポイント上昇しました。

来期は、売上の減少傾向が続くと予想しています。

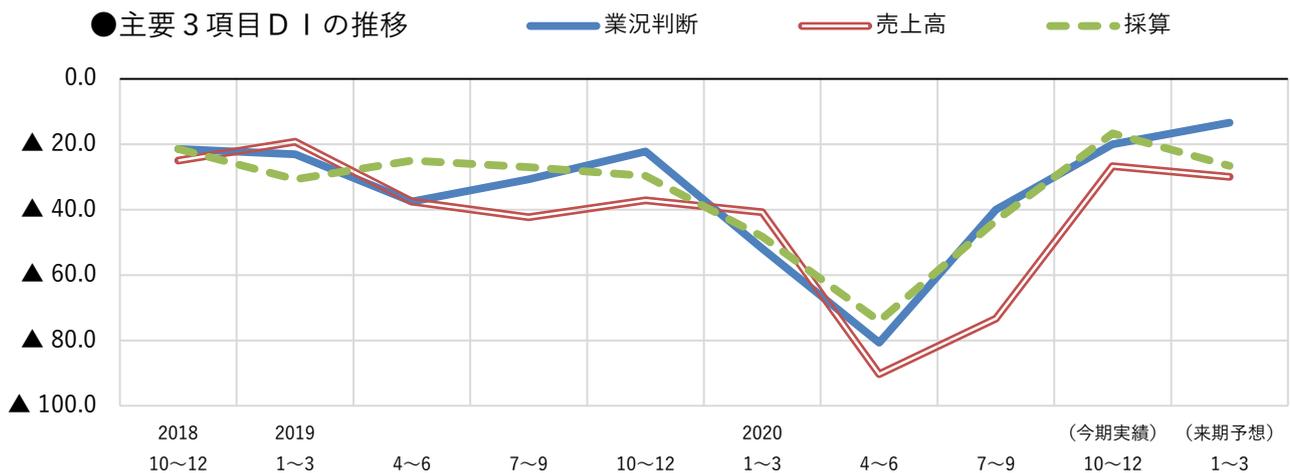


今期の採算DIは▲16.7で、前年同期と比べ12.9ポイント上昇しました。

来期は、採算の悪化傾向が続くと予想しています。



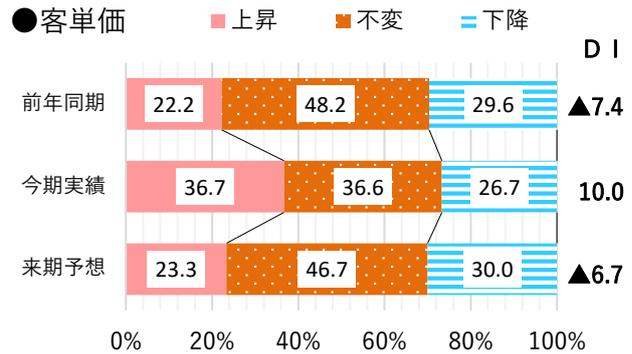
●主要3項目DIの推移



客単価、客数

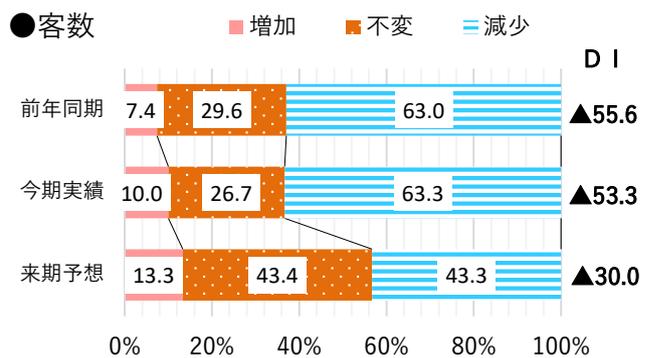
今期の客単価DIは10.0で、前年同期と比べ17.4ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、客単価が下降に転じると予想しています。



今期の客数DIは▲53.3で、前年同期と比べ2.3ポイント上昇しました。

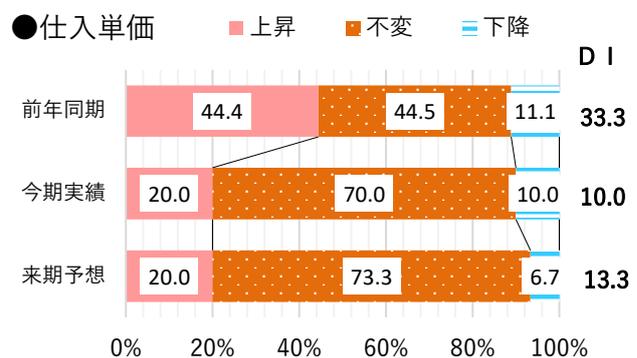
来期は、客数の減少傾向が弱まると予想しています。



商品仕入単価、商品仕入額、商品在庫数

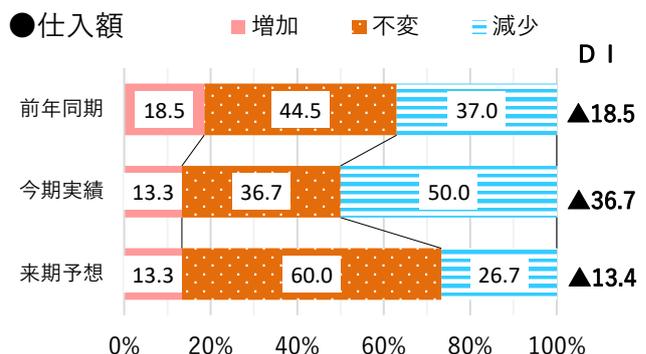
今期の仕入単価DIは10.0で、前年同期と比べ23.3ポイント低下しました。

来期は、仕入単価に大きな変化はないと予想しています。



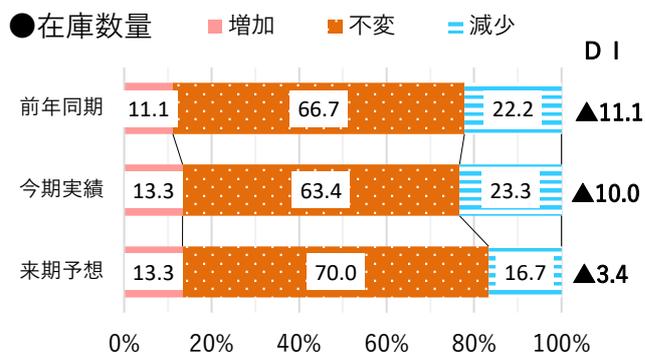
今期の仕入額DIは▲36.7で、前年同期と比べ18.2ポイント低下しました。

来期は、仕入額の減少傾向が続くと予想しています。



今期の在庫数量DIは▲10.0で、前年同期と比べ1.1ポイント上昇しました。

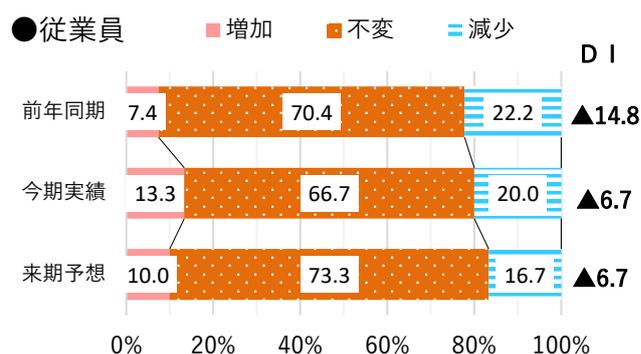
来期は、在庫数量の減少傾向が弱まると予想しています。



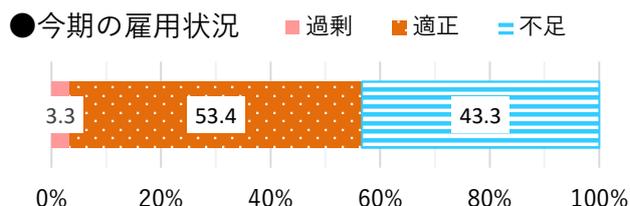
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員DIは▲6.7で、前年同期と比べ8.1ポイント上昇しました。

来期は、従業員数の横ばいを予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は3.3%、適正であると回答した企業の割合は53.4%、不足していると回答した企業の割合は43.3%でした。



従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、小売業全体の40.0%を占めています。

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」という回答でした。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	2
不変だった	過剰	0
	適正	12
	不足	8
減少した	過剰	1
	適正	2
	不足	3

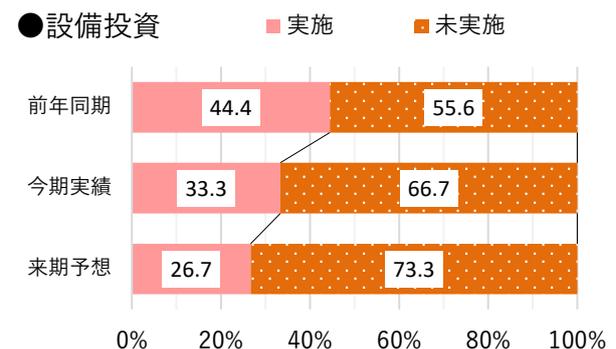
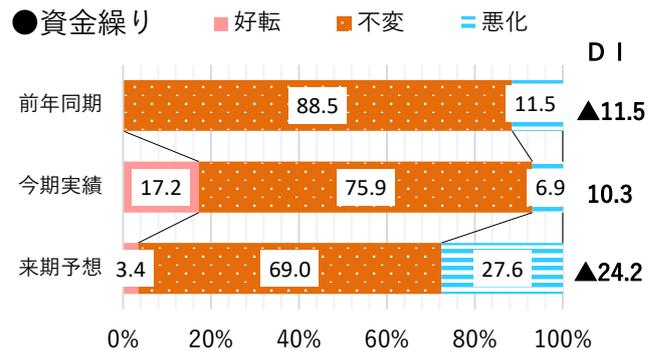
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは10.3で、前年同期と比べ21.8ポイント上昇し、プラスに転じました。

来期は、資金繰りが大幅な悪化に転じると予想しています。

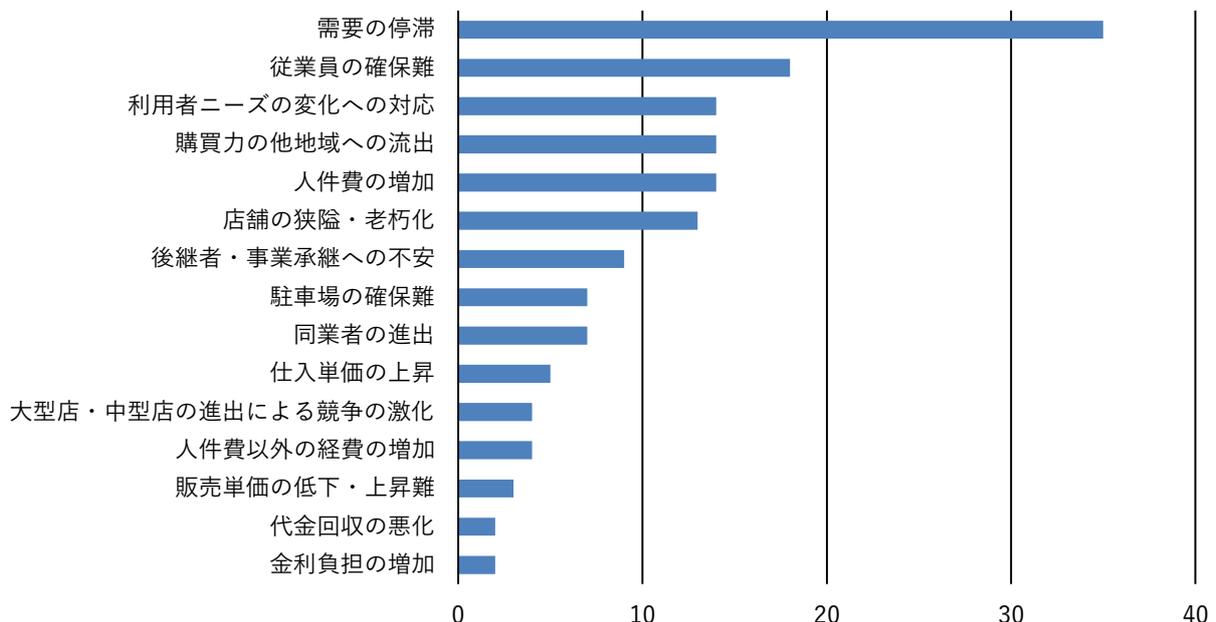
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ11.1%低下しました。投資内容は1位が「店舗」、「販売設備」、「付帯施設」、「OA機器」（同位）2位が「土地」、「車両運搬具」（同位）の順です。

来期に設備投資を計画している企業の割合は26.7%で、減少を予想しています。



経営上の問題点

今期直面している経営上の課題は、1位が「需要の停滞」、2位が「従業員の確保難」、3位が「利用者ニーズの変化への対応」、「購買力の他地域への流出」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルスにより、飲食店や観光関連施設への販売額が低迷した。融資や補助金で一時的に業況が好転したが、今後は不透明である。ネット販売は少額ながら伸長した。(食料品小売)
- 売上額は、巣ごもり需要によってプラスになっている。(食肉小売)
- 新型コロナウイルスが一時的に落ち着いた時期は、客数が増加した。(菓子製造小売)
- DMや、札幌市民に向けた広告による販促に取り組んだ。メーカーの見切り品を大量に買い入れた。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスの影響か、客数が伸びなかった。印章の売上が好調だった。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスによる休業や時短営業のため、売上が減少した。(衣服・身の回り品小売)
- 売上は減少したが、経費圧縮により業況が好転した。正社員採用希望者が多い。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの影響が一段落し、安定した経営ができた。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの影響は無い。(自動車小売)
- 多少の持ち直しがあったと判断するが、新型コロナウイルス流行の第3波により、先の見えない状況に戻ってしまった。年末年始は小売業にとって最大商戦の時期だが、例年とは異なるアプローチが必要になると考えている。(大型店)
- 客数の減少に伴い、売上が減少した。従業員の採用を控えている。(大型店)
- 前期と同様の状況だった。採用についての問合せが増加している。(大型店)
- 客単価と売上は増加したが、客数は不変だった。プレミアム付商品券、特に小樽市内に本社、本店がある店舗でのみ使用できる地域応援券は地元企業としては大変ありがたく、利用客が多かった。このような取組はまた実施してほしい。(ドラッグストア)
- 借入金が増加した。税、社会保険料が負担となっている。(花・植木小売)
- 雪が少なく、除雪用品の売上が減少した。(ホームセンター)
- 新型コロナウイルスの影響で、売上の動きを把握しづらい。(コンビニ)

[来期の業況について]

- 新型コロナウイルスの終息が見えず、不透明である。最低でも今期と同水準の業況を維持し、新規事業によってわずかでも売上を伸ばしたい。既存の得意先、取引先の廃業や閉店が懸念される。(食料品小売)
- 新型コロナウイルスの動向に左右されるが、好転の可能性もあると思われる。(食肉小売)
- 新型コロナウイルスの感染者数が増加すれば、不安を感じながらの経営になるだろう。(菓子製造小売)
- 新型コロナウイルスのステージが引き上げられると、人出が極端に減るため、売上は減少するだろう。長期借入の返済に苦労すると思われる。(衣服・身の回り品小売)
- 新型コロナウイルスの終息による、経済活動の正常化に期待する。(衣服・身の回り品小売)
- 全体的に急激な悪化が予想される。(衣服・身の回り品小売)
- 2名の採用を予定しており、うち1名は即戦力である。初売りによる売上の増加を目指す。市場は厳しい状況だろう。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスの影響が不透明だが、投資により利益の増加を図る。(自動車小売)
- 客単価が少しずつ下降すると思われる。(自動車小売)
- 新型コロナウイルスが落ち着かなければ、悪化は目に見えている。防疫体制は方法が限られてきており、更なる有効な手段も見つけにくい。継続した取り組みが必要だと考えている。(大型店)
- 新型コロナウイルスの終息の目途が立たなければ、今期同様の業況が予想される。(大型店)
- 新型コロナウイルスの影響の見通しは立たない。業況の悪化を予想する。(ドラッグストア)
- 借入金の返済が負担となるため、苦しい状況が予想される。(花・植木小売)
- 新型コロナウイルスの終息を願う。(コンビニ)